

卒論プラン

2007年3月⁴/₂日

氏 名

● 手がかりとなる文献の内容の要旨

井崎正敏 『倫理としてのメディア』 NTT 出版 2006 年

- ・メディアによって認知された事実は重大な事実として世間では思われてしまう。新聞やパソコンで流れている情報は、我々ではそれが事実かどうかは断定できない。メディアによって世論が形成されてしまう。

[・マス・メディアの仕組みとは世論の欲望を喚起し、それに見合った「事実」を報道し世論を誘導し、抱え込むシステムである。 *回みだ求めている事実*

{ ・マス・メディアの報道に疑問を抱きインターネットで異なる情報を求める傾向が強まっている。

- ・メディアの流す情報を批判している自身のまなざしがすでにメディアによってつくられている。

- ・メディアが誘導する「世論」も可能な「世論」のひとつにすぎない。

● 卒論のテーマ

マス・メディアの現状と今後のゆくえについて。

● 調べたい点、解明したい点

- ・マス・メディアが今後どのように変わっていくのか。

・日本のメディアだけでなく、経済が急速に発展しているなかで情報規制が厳しい中国、情報が政治や戦争に非常に大きな役割をもっているアメリカなどとの比較。

- ・メディアの情報を倫理的な観点からどういったモラル、ルールが必要で、情報が一人歩きする状況で何が懸念されているのか。

・マス・メディアのなかでも特に重要になってきている IT が他のメディアにどのような影響を与えていくのだろうか。

● 核となる文献

・犬塚先 『情報社会の構造—IT・メディア・ネットワーク—』 東京大学出版会 2006 年

○ 井崎正敏 『倫理としてのメディア』 NTT 出版 2006 年

文献一覧 → 別紙